あっ…
おかえりなさい
薬売りさまっ
でーん♥

たっくさん
出ましたね
どきっ
いつも
お疲れ様です
どきっ

で、用件はなんなんだ
まぁお偉いさんから厄介なモン押しつけられちまってね
キィ
ゥッ
コレ。
散々弄ばれて捨てられたエルフだ
バラせば薬なんかの素材になるらしいがそんなツテはなくてね
どう？要る？
手足とか腐り始めてるケド。
・・・

ちょっと失礼…
パン!
両目とも視力はない
そもそも左眼球は
物理的に消失…
手足の壊疽も状態がひどく、体全体に痛々しいムチの跡や切傷・打撲・裂傷の数々、
ツメは殆ど剥がされ歯にいたっては奥歯の数本以外が抜かれてしまっている模様。幸い聴力は失われていないが、内臓のダメージも気になる
ピクッ
聴こえるかなー?
自分が処理や保護を断った場合
この子の行く末を考えると
様々リスクはあるが見過ごす
わけにはいかなかった

かすかに
声が聴こえる…
ボソ…
…タイ
オウ…チ…
ボソ…
ボソ…
カエ…ヒ…っ…リ
タイ…イ…ヒ…
で？どう？
要らなきゃ
他を当たるよ
引き取ります
ちょうど薬に必要な
部位は無事そうなので
手数料も多めに払うので
ご内密にお願いします
ささやかな願いを何度踏みにじられたのか。
エルフの肉体を素材とした万能薬など
デタラメなウワサ話で存在などしない上に
質店主の求めた引き渡し金は家畜一頭分に満たない
ほど安く、それがなおさらに腹立たしかった。

手続きはすぐ終わった
できるだけ早く
処置がしたい
いやーいい取引が
できて助かったよ
奴隷屋はキライだし
ウチで死なれてもねぇ
ハァ…
あ…
清潔な布を数枚、
ベルトや麻ヒモ
あと返すんで背負子を
貸してください
え！
背負子ってあんた
馬車とかじゃなく
持ち帰んのか！
ファサ…
ええ、まぁ
先を急ぐので
気をつけてなー
エルフの娘は荷支度で触れたりしても
終始に無反応だった。安堵といった雰囲気
ではなく物として扱われる事に慣れすぎて
しまっている、そんな様子だった

手早く薬の仕入れを済ませ
都市を後にした。工房はさほど
遠くないが山越えだとより早い。
魔物に出くわす心配も少ない山だ。
随分来たな
一旦休むか…
ハアアア…
エルフは古来深い森に暮らすものと聞く。
どうということはない山道だが
自然に佇む彼女の姿は様になった。
気のせいかもしれないが、街中にいた時
より表情も和やかにみえた。

歩くうちに夕時だった
この山頂付近まで来たら
夜休んで朝に出発すれば
昼前には工房に帰れる
ん……
モム…
米・芋・卵・香草などのスパイス
と塩を適当に煮た物を夕食とした
調理は陽が沈む前に済ませる
モグ…
体つきからして栄養の心配はなさそうだが
自力はムリなので匙を口に運んで食べさせる。
焦って冷ましきらずにエルフの娘の口へ運んで
しまったのか、目は涙ぐんでしまっていた。

ハァ…
ギリ…
夜になるとエルフの娘は高熱を出した。
疲労もあるだろうし全身の傷の炎症や
感染症が臓器に回ってる可能性も高い。
この分では手足は切断の他ないとも…
ハァ…
ひとまず解熱・抗菌の飲薬を簡易に
用意する。自生のニワトコ・ルリジシャ
を煎じ、魔層石(マナ・クォーツ)を粉末にして加える。
とても飲めない味なので塩と蜂蜜で
ごまかして彼女の口へ流し込んだ。
スー…
スー…
しばらくうわ言混じりに呼吸も
浅かったが、薬が効きはじめると
穏やかな寝息になった。注意しつつ
今後の処置を考えていると
夜は明けてしまっていた。

仮眠から目覚めると
彼女もすでに
目を覚ましていた

パチ

おはようございます
…

おなかは空いてますか
…。

た、体調はどうですか
…

かれこれ丸一日ほど
いっしょにいるが会話
はできない。無理も
ないが何かきっかけは
ないかと考えた結果
苦肉の策が出た…

願いを込めて君に
渾名をつけて
呼ぼうと思う…

復活
「リズレ」

この名のとおりに
キミを治す、
そう約束しよう

聞こえてるのか、本当の名前を知れるほど
回復させられるかどうかもわからない。
黙々と足早に歩き、麓の川沿いを下ると
予定どおりに工房のある集落へ到着した。

工房に帰って洗体のために湯を沸かす。不思議と異臭はしないが衛生状態の酷さは見目に明らかだ
もうろい
へなますか……
浴室で痛んだ肌着を脱がすもまったく反応はなかった。ただ背中のキズからもこれほどまでに感情を失くしてしまった経緯は痛いほど察せられた。
洗体を終えると彼女の白い肌に悪意の塊のようなキズ跡が鮮明に浮かぶ。冷静に塗り薬のレシピを頭に浮かべたが、包帯を変える手は怒りに震えた。
リズレ
クソ…ッ

・・・
全身の外傷へ薬草由来の軟膏を塗りガリアの葉っぱを隙間なく被せ皮膚の治癒を促す。更にスライムの体液に浸した薄布を貼り保護する。張り替えは三日毎くらいか。
うっかりした事に彼女の服を買い忘れていた。そこで薬と作物を手土産に、集落の馴染みに「新しい患者のために古着を貰えないか」と相談すると快く譲ってもらえた。ありがたい。
目を覚ましたリズレに服を着せ、髪を梳かすとようやく少女らしい佇まいに落ち着いた。見違えた雰囲気に自分自身安堵してしまったのか、急激に二日分の眠気と疲れが押し寄せた。

フル
フル…
眠気を振り払い夕食を済ます
途中からリズレは震えが止まらず
心配したが私の気遣いが足りなかった
容態ばかりで生理現象まで気が回らず
丸二日も我慢させてしまったようだ。
ブルッ
寒いかな？…それともまた熱…ん…？
あっ
もじ
もじ
ヨロ
ヨロ
彼女の忍耐力は察したが
食事もいつまでも流動食では
味気がないだろう…入歯しか
手立てはないのか……
内臓のダメージがないか、
手足の壊死の進行も気になる
クラッ…
トサッ
スー…
スー…
・・・
急激な代謝による寿命の減少を
対価として肉体の物理的な再生
回復を可能にする「ハイポーション」
の精製を目指すという手もあるが…
今の自分の設備や知識では……
とても……いや…何か手が……

どうやら彼女を寝床に運んで力尽きてしまったらしい……日が昇り始めの早朝だが彼女は既に起きて所在なさげにしていた

薬を造る上で素材の調達方法は色々あるが私は栽培をメインにしている。畑の手入れは極力欠かしたくない。彼女にはその間日光浴でもしてもらう事にした

リズレさんちょっと…

仕事してきますね…

キィ…

キィ…

じわ…

ふッ…ウッ

ぐすッ…ぐ…

うっ…ひぐっ…

そばを離れて間もなく、しずかな庭畑にリズレの啜り泣きはよく響いた。涙の訳は知る由もないが傷つけた側の同類（人間の男性）が心の傷を癒すのは簡単ではないように思える。泣き声が落ち着くまで無心で作業していると日が真上に昇るまであっという間だった

おじさーん
コンニチワー
いらっしゃい
彼女の世話をしつつ店を開ける。
しばらくすると服を譲ってくれた
馴染みの娘のモネが訪ねてきた。
いつもの用事は配達のおつかいだが
今日はエルフへの好奇心からだ。
本当にいた！
ピュ～
シーン
ガチャ
モネのリズレに対する質問の数々に
代わりに答えながら手を動かす。
こんな付け焼き刃のものが役立つか
わからないが無いよりマシだろう…
フッ
みて～
リズレちゃんはね
おじさんの
おヨメさんなの！
ん!?
いやいや！
患者さんですよ！
おケガ治す人…！
子供らしい無垢で温かな接し方だった。
モネのかぶせた花冠、彼女自身が見たらどんな
表情をしただろう。視力回復の見込みは
薄いが手元の点眼薬でもひとまず試してみよう。

回復には時間が掛かる。様子を見つつ
処置が可能な皮膚へのケアや
点眼薬、消化に良い食事、十分な睡眠、
血行の為の按摩や体位変換を心がける。
その合間に入れ歯の制作を進めた。
ポチョン
カン…
コン…
心音がやけに小さいな？……あぁ。
Oru
中央図書館の文献を参考に猪の牙を削りだし、
水竜魚の皮膚を着床部にかぶせた本体を
スライムの肉で仮癒着させる。丁度の大きさに
成形するのは苦労したが噛み合わせの調整に
幾日も付き合う彼女も大変だったろう。
ともあれ、リズレの入歯は完成した。
ロ…ソクが暑い…
…お疲れ様でした
ひとまずこれで使って
みましょうか…

手足の壊死が本当に少しずつだが進んでいる。久しぶりに友人を頼ってみるしかないかもしれない。頭を悩ませていると、以前に腰を治療した牛飼いが尋ねてきてお礼にと大量の肉を分けてくれた。

保存加工に回す分以外は調理してしまおう
堅い部位は南方のスパイスを使った煮込み料理に、比較的柔らかい部位もよく叩き玉葱や茸、酒に漬けてステーキにした。

私も久しぶりのご馳走だがリズレはいつぶりだろう。口に入れた瞬間、反応は明確だった。その後も夢中で頬張ってくれたので一安心、入れ歯も今のところうまく馴染んでるようだ。

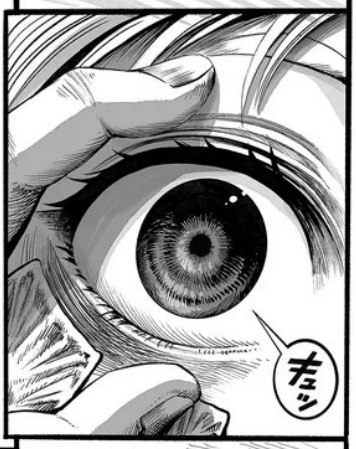
手足の件で友人に文を送る。通文手段は沢山あるが昔ながらの使い鴉しか使わない変わり者だ。返事を待つ傍らでリズレは感応性を徐々に取り戻している様子だった
肩イタ…
リズレちゃんまたねー
スン…
たのんだよ。
カッ
…？
ドサッ
このままいけば思ったよりも早く会話をできるかもしれないと思った矢先、ある日リズレは何の前触れもなく尋常ならざる様子で倒れた
けほっ
リズレさん…？
カッはっ
ヒッ
リズレさん…ッ！！
容態を見ると、高熱・痙攣・呼吸困難、そして異様な目の充血と胸の特徴的な赤み。黒曜グモという魔物の神経毒の症状そのものだった。推測だが、喀血は何者かが遅効性の薬丸でリズレの胃袋に毒を盛った事を意味していた

黒曜グモは図体の割に臆病だがその分敵を捕らえる毒は強力で古来暗殺にも用いられる。だがこの集落にそんな事を知る者はいないし、質屋はそんなタマではない。考えられる可能性は一つだけ…以前の「主人」だ
ボロッ…
うっ…おエッ…
毒の回り始めなら手遅れではないかもしれない。すぐに胃の洗浄を炭粉を用いて行い、ルゥムやセンナ等の薬草エキスで体外への排出を促す。すると丸薬らしき異物が胃液と共に出てきた
リズレさん…
…もう…少しだけ頑張って下さい…
異物は「殻」のようなもので薬としては異常に分厚く、歪な古代語と呪印のような刻印が目視できた
「どこか邪魔にならない場所に行って死んでおけ」
薬師としての勘だが、出会った時のリズレの状態・傷・この毒薬の処理から滲み出る悪意はそのようなメッセージに感じられた。腹の底にドス黒い感情が押し寄せる……が、まず彼女の体の毒を何とかしなくては…。
ガッ
ギッ

まかせてお!!
解毒薬には野外に出なければ揃わない材料がいくつかある。私が留守にする間はモネと母親のアネに看病と様子見を頼んだ。気は重いが念のためリズレの容態が急変した場合の事も伝えた。
ポチョッ…
液ベースにマンドラゴラの根、抗体元の毒の原液（黒曜グモの肝）、属性転換の魔層石、薬草の凝縮液を組み合わせてドワーフ製の竜牙針で肩より注射する。急いで二日ほどで戻ってくると、モネ達の看病のお陰かリズレは持ち堪えていた
リズレさん…もう少し…すぐ…よくなりますよ

…ん…
暑い…
…苦しい
…暗い…
このまま…
私…
ズズ…
…レさん…
誰かが呼んでる……？
ゴポポ…
リズ…
……ん…
大きくて優しい手…
…この人は…
だいじょ…
…ますよ…
ボソ…
リズレさん…
パチッ
ズズ…
チュン…
…ひか…
…り…？
チュン…

リズレに解毒薬は無事効いたらしく意識は戻り辿々しいが言葉を交わせるまでになった。驚くことに失明も明暗の判別ができるほどに回復していた



詳細不明だがマンドラゴラの活性作用、魔層石の反転作用が解毒と同時に視神経に刺激をもたらして修復を再開したのかもしれない。

回復は喜ばしいが状況を話しても飲み込みがあまりよくない。故郷やあだ名について伺うと、意識の混濁または加虐への防御反応か、この集落に来る前の記憶は失われていた…

助け…て

くだ…さっ……あ…
ありがと…ございます…

けれど彼女（リズレ）の言葉や表情を受けて彼女の未来への希望を感じ、私自身も少しだけ救われたような気がした

リズレと込み入った話をする間もなく患者の野菜農家がお礼にと規格外のカボチャを分けてくれた。なので早速カボチャシチューを…
先生！
この前はありがとう
ありがたいのですがまたデカイ…
先生は少し休んで
目のクマやばいぞ
ガッ
ドサ
ピコ
ピコ
?!
ちぃ
ちぃ
ちゃっちゃ
と思ったが、様子を見にきたアネとモネに休息を薦められる。話の流れでカボチャのケーキを焼いてお祝いしてくれるという。……お言葉に甘えることにした…
おいしい？
もぐ
あまくて…とても…おいしーです…！
昨晩まで寝込んでいたことや、茫然自失としていた事が嘘のようにリズレは食事と会話をこなしている。一旦、記憶喪失は様子見でまず身体の回復に注力しよう、そう考えていると丁度友人から手紙の返事が届いた。
コン
コン
！

友人からの手紙は、「面白そうだからいじってみたい。あとカネくれ、金。貯め込んでるだろ」そんな内容だった
複雑な気分だが医者として腕は確かだ彼女の手足のために頼るしかあるまい

…あの…

…ぁ…

ゴゴゴ

奴の住処は遥か北だ。転移屋（ポータル）、魔封書（スクロール）乗物などを使っても片道五日はかかるだろう。リズレの具合はよさそうだが集落を留守にしてしまうので危険物や貴重品は禁印庫にしまい薬品や簡単な対処手引を置いて旅に出ることにした

禁印庫…使用者しか開けられない貯蔵庫

北方でなくとも大陸全体はじき冬入りとなる。移動中の冷えは命取り、ケガ人であれば尚更だ。ただ冬物は高価なのでアネにも頼み辛い…私物を着せてみるも当たり前だがブカブカだ…先に街に寄って買出しが必要のようだ…

…ちょと…
あつい…です…

ブカ…

ブカァ…

!!!

私の倹約趣味にリズレを付き合わせてしまい反省…手紙に返事して旅の準備を急ごう……

買出しは結局一人で行くことにした
リズレは街中で目立つし、質屋には背負子を返し、新しい物を買い取って彼女は別の薬師に引き渡した事にした
おお！あんたか！どう？あのエルフは薬に使えた？
いえ…ちょっと…残念ながら…
怪しい…
ジロ
ジロ
ギッシリ
男が女性の衣服や下着を買うのには苦心した。親戚のものだと説明したが視線の冷たさは暫く忘れられない…食糧も背負うと帰りの馬の足取りは些か鈍った
カァ…
…あの
…おもくてごめんなさい…
材料に比べれば全然軽いので大丈夫ですよ…
出発の朝は冷え込んだので上着を着て丁度良い。彼女には見えないが似合いそうな白い服と、感知魔力（センサー）のある首飾りを着せた。まずは北へ半日歩き森を抜け転移屋を目指す。

歩き続け半日、慎重に歩いた為か時間が掛かり早めに野宿する事にした。彼女の解毒からここまで、思えばゆっくり話す余裕はなく初めて色々と話す事になり…
ザッ
ザッ
ザッ
用心の為の備品が重い…失敗したな
おなまえを…聞いても…？
カキッ
パチ…
あ……
私のことは薬売りとそう呼んでくれれば
ピクッ
！
…ハイ…よろしくおねがい…します
くすり…うりさん。
パチ
本来であれば疑問を掘り下げた筈だが、リズレが快く受け入れてくれて安堵した。治療して彼女の故郷へと連れ帰るまでの短い関係だ。
…私について深く知る必要はない…

!!
転移屋（ポータル）を目指し深い森を歩いていると運悪く巨灰熊（キンググリズリー）に遭遇してしまった…冬籠前の彼らは獰猛で厄介だ。独りなら対処に苦もないが、この状況では彼女に危険が及ぶかもしれない
ズン
ピクッ
仕方ないと刃物に手をかけた所で背後から鳴き声とも歌ともいえない不思議に澄んだ音が響く、リズレの声だった。それを耳にした熊は息を和らげて茂みへ戻っていった。「森の民（エルフ）」の彼女の一面を初めて見た気がした
動物とお話…できるのですか？
よく わからな…です
あのこ…おびえてて…
…それで…

熊が怯えるのも無理はない、森の中心地には巨体の蛇の魔物がうろついていた。近頃悪いマナの影響でこういった変異種も多いと聞く。
ッ！道理で
ピタッ
ズズズズ……
ギョロッ
！
ビクッ
ゴゴゴ
リズレさんはここで少し待っててください…
いったい…なにが…
ドキ
ヴォン
ズッ
ガ
ドズン！
放っておけば近隣の村に被害が及ぶ。彼女と荷を降ろし、強壮薬を一口・振動魔力を付与した刃で怪蛇を仕留める。気づけば軽く傷を負ってしまっていたが道行きには問題ない、先を急ぐ事にした

念のため手の傷は神経毒に有効な抗毒薬を打ち手当てした。工房を出て二日目の夕方転移屋（ポータル）のある山間の街カルガに着く。彼女が転移酔いする場合を考え、この街でなく転移先の北方の街にて宿をとることにした。
ギュッ!
アー…
ジロッ
薬師様 恐れ入りますが耳長の方は転移にはご一緒させかねます
…いや
えぇと…この方は患者で治療の為…
頭巾してても判るンですよねェ肌色・眼・髪の毛でどうしてもオというのであれば特殊貨物申請と適切な手数料のですね…
転移屋は便利だが高価な移動手段で貴族・役人の利用が主だ。転移士免許は取得が難しく、面倒を抱える客も多いために賄賂などで稼ぐ擦れた者も少なくない。
あっ…くすり、うり…さん…ごめーわくを お、おかけ…
しちゃうので…わたしのことは…
ッ…!
料金は2倍払うのでなんとか速やかに送っていただけませんか?
何卒（なにとぞ）。
ピキィ…
あッ!!!すぐ準備しますので少々お待ちを…!
あ。代金も割増などなく到着先でお支払いを!
…お気遣い感謝します
あの目、絶対カタギではない殺られるかと…
異人種への差別が黙認されるようになったのは80年程前で、今や五人種の関係性は最悪だ。しかし彼女には治療が必要であり種族を理由にそれを遮られるのも、彼女の気持ちが蔑ろにされるのも耐え難かった。

カルガから瞬く間に北方の街ノースベイルの移陣舎へ転移が完了した。早々と宿を見つけられたが寝台が一つの部屋しか取れず。少々窮屈だが休息に支障はない。リズレと宿にて食事を摂ると、転移の魔力流に併せ旅の疲労が押し寄せたのか気絶のように寝てしまった。
これ、サクッ…ジュワッて…おいしーです。
リズレさん 意外と脂っこい料理もお好きですよね…
Zzz…
…
わたし…、ゆかでいい…のに…
パチッ
スゥ…
スゥ…
目覚めると彼女が間近に寄り添っており咄嗟に呼吸を止めてしまった。治療で触ることはあったが、こうまじまじと寝顔を見つめる機会はなかった。あどけない表情だ。余りにも安らかな空気や隣の布越しに伝わる温りにつられ、私ももうしばらく眠ることにした…
イロ…

なにか夢を見てたような。
ノースベイルの宿で朝食をとり、軽く買物をして鹿車に乗って出発する。友人宅のある山の中腹まで半日、そこから登山すれば到着だ。雪鹿は力はあるが足は遅い為、車で揺られる間にリズレとゆっくり話をすることができた。
ガタ…
あの…どうして
こんな…よくしてくれる…ですか？
ゴト…
……私も以前、
同じような状況で
助けてもらったことが
ありまして…
お前さん腹減ってそうだな
食わせてやるついてきな
そう…
だったんですね…
生まれてすぐに親を失ったこと、飢餓に喘いでいた所を魔族に保護されて命拾いしたこと、そして彼女を見つけて放っておけなかったことを話した。幸いに雪は降らず、鹿車は穏やかに歩みを進めた。